

日本型ボーングローバル企業の戦略行動特性

—伝統型海外進出企業との比較を通じて—

高井 透（日本大学）

神田 良（明治学院大学）

キーワード：ボーングローバル・競争優位性・組織能力

I. 研究に着手した背景

近年、情報技術のさらなる発展、グローバルレベルでの競争・市場環境の変化などを受けて、従来唱えられてきたボーングローバル企業（設立からすぐに海外展開する企業）と伝統型企业（輸出から直接投資へ段階的に海外進出のレベルを上げていく企業）との間の相違に対して、疑問が投げかけられるようになってきている。例えば、ボーングローバル企業と他の企業では、経営戦略においてそれほど大きな違いはないというファインディングスも提示されている。とくに、ボーングローバル企業と他の企業では、マーケティングにおいて大きな違いがあると言われてきたが、このマーケティングにおいてもさほど違いはないという調査結果もある。日本でもかつてはボーングローバル企業と他の企業では、かなり競争・市場戦略などの点において異なっていた。しかし、数年前に実施した我々の調査からは、競争・市場戦略などの点において大きな違いを見出せなくなっている。|そのため、改めて伝統型企业とボーングローバル企業の戦略行動を多角的な視点から比較することが必要であるということが、本研究の出発点である。

II. 研究目的

従来の先進国をベースに構築された多国籍企業論と異なり、ボーングローバル企業の研究分野は、新興国のボーングローバル企業も研究対象になっており、国も企業も産業も多岐にわたっている。そのため、研究対象の国や産業、企業によってインプリケーションの違いが見られる。そこで本稿では、まずは国内ベースで強みを形成した後に、海外展開する伝統型ベンチャー企業との比較を通じて、日本型ボーングローバル企業の戦略的行動特性を改めて明らかにすることを目的としている。

III. 本研究の特徴と分析方法

本研究の方法論は、比較事例研究である。この分野での比較事例研究は、競争・市場環境がダイナミックに変化するハイテク関係分野の研究に偏っている感があり、ローテク関係などのボーングローバル企業を対象とした研究は少なかった。そのため、ローテク関係のボーングローバル企業の戦略行動自体が十分に解明されてきているとは言い難い状況である。このような状況を考慮し、本研究ではハイテク産業だけではなく、ローテク産業を含

むボーングローバル企業の戦略行動を、伝統型企业と多角的な視点から比較分析するところに特徴がある。